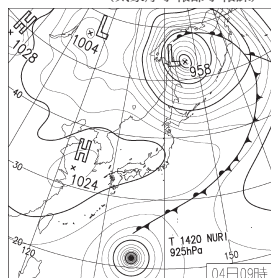


# 日々の天気図

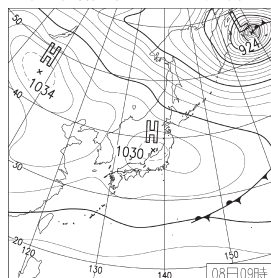
— No. 154

## 2014年11月

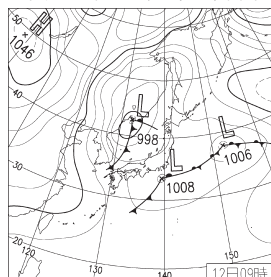
・7日に日本の東海上で発生した低気圧が急速に発達しながら北東進、8日15時にはカムチャツカの東で中心気圧920 hPaまで発達。  
 ・13～15日、冬型の気圧配置となり強い寒気流入、北日本などで雪。15日の最深積雪は北海道幌加内町朱鞠内で50 cm、札幌で25 cm。  
 (気象庁予報部予報課)



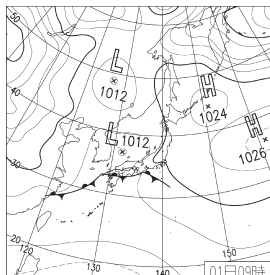
**4日(火)北日本で寒気残る**  
 移動性高気圧に覆われ、北日本日本海側を除いて晴れ。北日本は等圧線の間隔が狭く西風の強い状況が続く、北海道日本海側は雪や雨。甲府で初霜。神戸市でイチョウ黄葉。



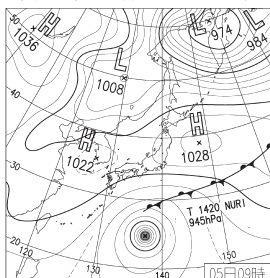
**8日(土)長野で初氷**  
 東シナ海の気圧の谷からのびる雲域が西日本から東日本へ広がり、西日本は夜から雨。晴れた北陸～東北南部は最低気温が11月下旬～12月中旬並。長野の初氷は東日本で今季初。



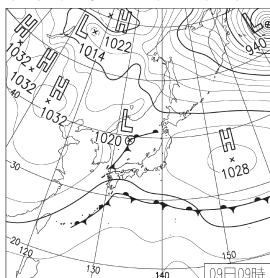
**12日(水)北海道で竜巻**  
 日本海の寒冷前線が東進し日本列島を通過。北日本を中心に突風が吹き、北海道安平町で竜巻発生。山形市でカエデ紅葉、イチョウ黄葉。埼玉、栃木県で震度4。



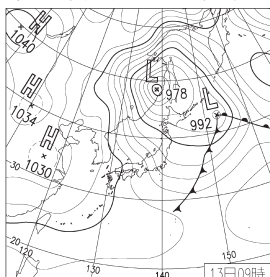
**1日(土)三連休初日、広く雨**  
 沖縄・奄美、西～東日本は、前線の影響で曇りや雨。低気圧接近で午後は北日本も雨。西～東日本は最低気温が高く9月並の所も。鹿児島県屋久島町尾之間で日降水量128.5 mm。



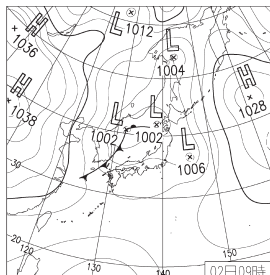
**5日(水)東北冷え込む**  
 東日本の太平洋側は湿った気流により曇りや雨。その他の地方は帯状の高気圧に覆われ概ね晴れ。東北では朝の最低気温が12月中旬並の所も。福島で初霜、山形で初氷。



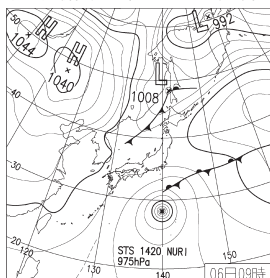
**9日(日)九州南部で雷雨**  
 日本海の低気圧や南海上の前線に伴う雨域が東進。朝は西日本、夜は東～北日本で雨。九州南部には暖かく湿った空気が流入して雷雨。鹿児島県屋久島町小瀬田で44 mm/1 h。



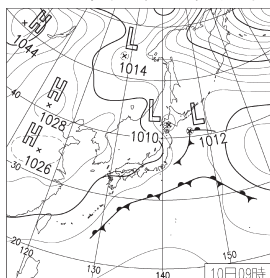
**13日(木)九州で初冠雪**  
 寒冷前線通過後に強い寒気が流入し日本海側は雨や雪。大分・由布岳と山梨・甲斐駒ヶ岳で初冠雪。秋田、盛岡、網走で初雪。北海道の幌加内町朱鞠内と名寄市大橋で日降雪量26 cm。



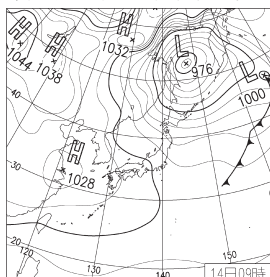
**2日(日)暖気流入、所々で雷**  
 南から暖かく湿った気流が入り広く雨で雷の所も。東北中心に気温上昇。一部で9月中旬並。岩手県宮古市川井で最高気温24.2℃など、11月の1位を更新。長野市でイチョウ黄葉。



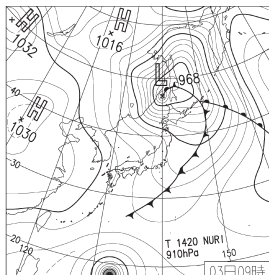
**6日(木)台風小笠原に接近**  
 台風第20号が小笠原諸島の近海を通過。父島で最大瞬間風速26.8 m/s。西日本の南岸や関東は湿った気流の影響で雨。北陸や北日本は前線通過により雨で、北日本は一部で雷も。



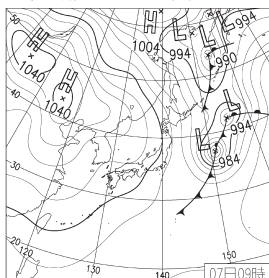
**10日(月)北日本 暖かな朝**  
 大陸の高気圧が張り出し、沖縄・奄美～東日本は概ね晴れ。北日本は低気圧の影響により北海道を中心に雨。北日本は冷え込みがなく、朝の最低気温は所々で9月下旬並に。



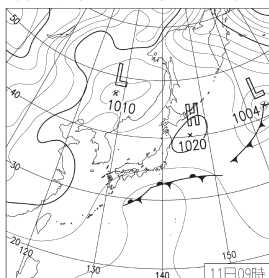
**14日(金)日本海側は雪や雨**  
 西～北日本の日本海側で雪や雨。群馬・武尊山、宮城・泉ヶ岳で初冠雪。奈良、宇都宮、水戸で初霜。初氷。甲府、室蘭で初氷。新潟県加茂市宮寄上で日降水量111 mm、11月1位。



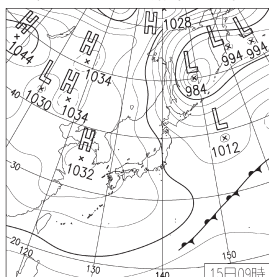
**3日(月)北海道で震度4**  
 北日本で風強まる。寒気流入により北陸や北日本は雨で、雪に変わった所も。群馬・浅間山で初冠雪。青森、室蘭、帯広で初雪。北海道えりも岬で最大瞬間風速39.4 m/s。



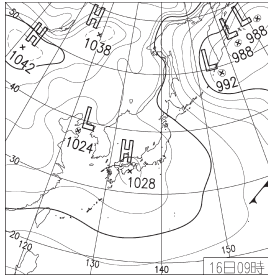
**7日(金)暖かい立冬の朝**  
 朝の最低気温は本州を中心に平年より高く、仙台は平年比+5℃の12℃で10月中旬並。稚内で初氷。福島市でイチョウ黄葉。秋田市でカエデ紅葉。台風第20号は温帯低気圧に。



**11日(火)東海、関東中心に雨**  
 前線の北側の雨雲がかかり九州・四国の南岸や東海、関東で雨。九州北部や中国、近畿は晴れ。北陸や北日本は高気圧に覆われ晴れ。父島で41.5 mm/1 hなど小笠原諸島で大雨。

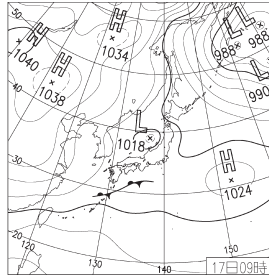


**15日(土)冬型気圧配置緩む**  
 冬型の気圧配置が西日本から次第に緩み、東～北日本の日本海側を除いて概ね晴れ。強い寒気が残った北日本では、最高気温が1月上旬並の所も。栃木・男体山で初冠雪。



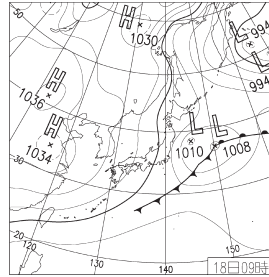
16日(日) 沖縄・奄美で雨

西～東日本は高気圧に覆われ概ね晴れや曇りだが、弱い気圧の谷の接近した沖縄・奄美や九州の一部は雨。北陸や北日本日本海側は、寒気の影響が残る雨や雪。



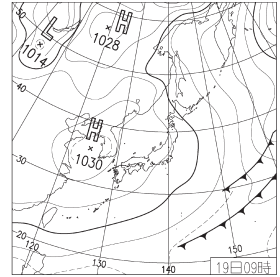
17日(月) 日差しなく、寒い一日

日本海の低気圧、本州南岸の前線により全国的に雨または曇りで、日中の気温は上がらず。上空の寒気の影響で山陰～北陸は雷雨の所も。靄路で初雪、福島で初氷。



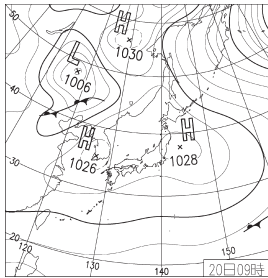
18日(火) 氷点下10℃以下

冬型の気圧配置となり日本海側は雨や雪。北海道上川町栄町で最低気温が12月下旬並の-11.6℃等、北海道内陸部の3地点で最低気温が今季内初の-10℃以下。



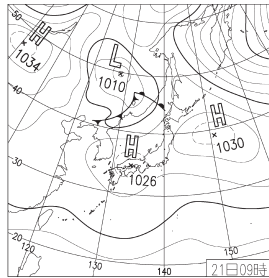
19日(水) 冬型緩むも寒い朝

冬型の気圧配置が緩み、日本海側の一部を除き晴れ。西日本を中心に朝の最低気温は平年より低い。岐阜と仙台で初霜・初氷、松山市でイチヨウ黄葉、長野市でカエデ紅葉。



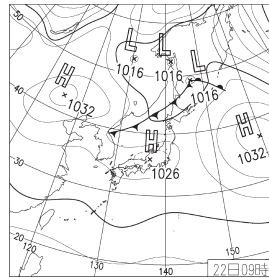
20日(木) 東～北日本冷え込む

沖縄・奄美と北日本は高気圧に覆われて概ね晴れ。東北は放射冷却により最低気温が1月中旬並の所も。西～東日本は気圧の谷に伴う曇りが通過、関東中心に雨。福島県で震度4。



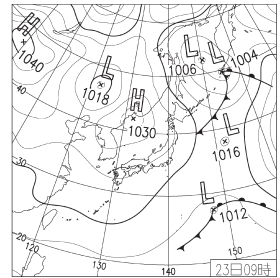
21日(金) 近畿～東北南部は晴れ

高気圧に覆われ朝は九州～東北で晴れたが、湿った気流の影響で午後には九州から雨域が東進。日本海の前線の接近で東北北部～北海道は曇りや雨。沖縄県与那国空港で56 mm/1 h。



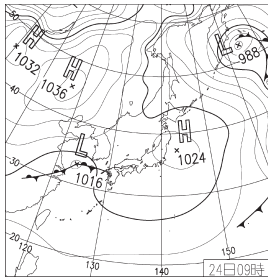
22日(土) 長野県北部で震度6弱

沖縄・奄美と北日本は曇りや雨。北日本の一部では雷も。西～東日本は高気圧に覆われ概ね晴れて気温上昇。最高気温は全国的に平年より高く、10月中旬～11月上旬並。



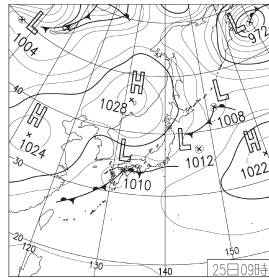
23日(日) 全国的に晴れ

移動性高気圧に覆われて全国的に晴れ、気圧の谷の影響が残った北陸は曇りや雨。東日本の太平洋側は最高気温が10月下旬並の地点多数。佐賀、富山、前橋市でイチヨウ黄葉。



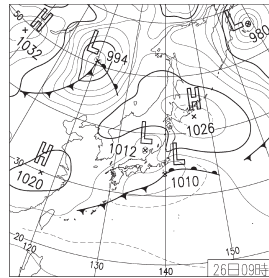
24日(月) 高気圧は東海上へ

朝は東北で12月中旬並に冷え込むも、最高気温は全国的に平年を上回る。前線や気圧の谷により九州、北海道は次第に雨。長崎県対馬市厳原で日降水量104 mm、長野県で震度4。



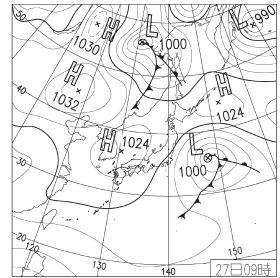
25日(火) 西日本で大雨

低気圧の通過で沖縄・奄美～東北南部で雨。北海道は概ね晴れたが寒気の影響でオホーツク海側など一部で雪。長崎県松浦で73 mm/1 h、高知県室戸市佐喜浜で日降水量123 mm。



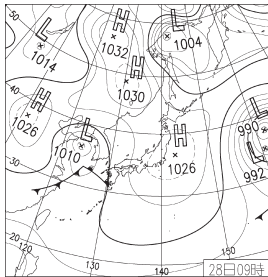
26日(水) 沖縄～東北で雨や雪

南海上の前線と日本海の低気圧により、北海道と青森県を除き全般に雨や曇り、東北は所々で雪。関東は気温が上がらず、最高気温が真冬の所も。山形で初雪。



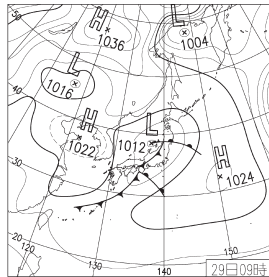
27日(木) 西～北日本は天気回復

沖縄・奄美は気圧の谷の影響で曇りや雨、沖縄県与那国空港、石垣市伊原間で76 mm/1 h。西～北日本は、低気圧が去り一部雨の所も次第に晴れに。大阪市などでカエデ紅葉。



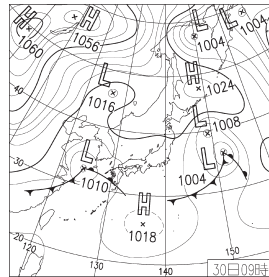
28日(金) 1時間96.5 mmの雨

天気は次第に下り坂で、雨域は西日本から東日本へも拡大。沖縄県下地島空港では11月の記録を更新する96.5 mm/1 hの猛烈な雨。南シナ海で台風第21号発生。



29日(土) 全国的に雨

日本海の前線を伴う低気圧により全国的に概ね雨。朝の冷え込みはなく最低気温は全国的に高めで10月上旬～中旬並。東京都三猛島神着で54.5 mm/1 hの非常に激しい雨。



30日(日) 雨域拡大

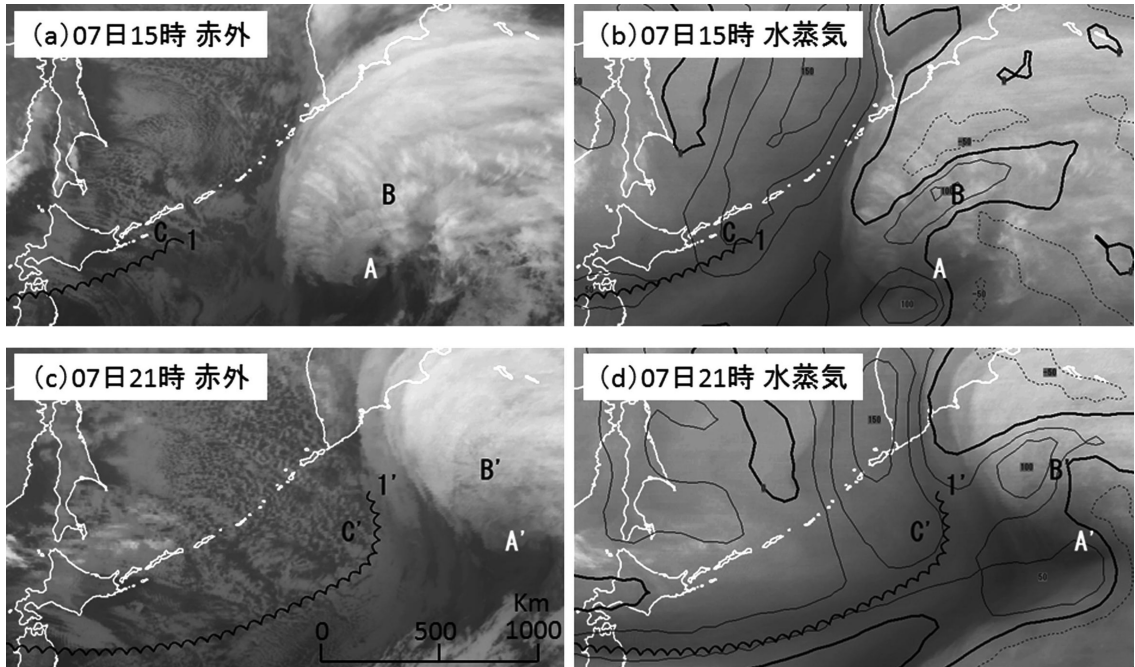
寒冷前線の雨域が沖縄・奄美にかかる。低気圧に伴う雨域は西日本から東日本、東北へ拡大。北海道は高気圧に覆われ日中概ね晴れ。台風第21号はベトナムで熱帯低気圧に衰弱。





## 今月のひまわり画像—2014年11月

### カムチャツカの東で猛烈に発達した低気圧



第1図 2014年11月7日15時, 21時(日本時間)の日本の東海上における赤外画像(左列)と水蒸気画像及び気象庁全球モデルによる500 hPaの渦度(右列). 図中の記号については本文参照.

台風第20号は、気象庁発表の台風ベストトラックによると、11月7日03時(日本時間)に日本の東海上で温帯低気圧に変わった後、北東進し、同日21時に千島の南東海上で消滅した。一方、この低気圧と入れ代わるように、同日03時に同海域で低気圧が新たに発生して、その後急速に発達し、8日15時にはカムチャツカの東海上で中心気圧920 hPaに達した。今回は、これら新旧の低気圧の推移を衛星画像から追跡してみた。

第1図 a, b は台風から変わった低気圧が消滅する直前の7日15時の赤外画像(a)と水蒸気画像(b)である。記号A付近にこの低気圧があり、12時間前に発生した新しい低気圧はB付近にある。A付近には、低気圧性に湾曲した中・下層雲とその北東側に高輝度の対流雲があることから、やや強い上昇流を伴う下層渦が残っていると推定できる。また、水蒸気画像(b)には東西走向を持つバウンダリが波線1にあり、その先端C付近には不明瞭な上層渦がある。同図 c, d は同日21時の赤外画像(c)と水蒸気画像(d)であ

る。A'付近には低気圧性に湾曲した中・下層雲があり、15時にA付近にあった下層渦が移動したものと推定できるが、周辺には高輝度の対流雲が存在しなくなったことから、この時刻には下層渦に伴う強い上昇流はなくなったと判断できる。一方、15時の時点でCにあった上層渦はC'まで、波線1にあったバウンダリは東端が低気圧性に湾曲しながら波線1'まで、ともに東北東進したが、低気圧性に湾曲した波線1'の東端付近からは高気圧性に湾曲した細長く筋状をしたCiストリークが発生している。さらに、C'から東北東へ約670 km離れたB'には、15時にBにあった低気圧が進んできている。湾曲したバウンダリや上層渦は500 hPa付近の強い正渦度を示唆することから、同日15時から21時にかけて、台風から変わった低気圧は中心での上昇流が弱まり不明瞭化する一方、その北側では500 hPa付近の正渦度移流などにより新たな低気圧が発達したものと推定される。

(気象庁予報部予報課 野中信英)